

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1 大学としてのポリシー

本学の学士課程において、幅広い教養を身につけ、専門知識と技術を修得し、以下の要件を満たした学生には学士の学位を授与する。

- ア 学則に定める所定の期間、在学し、本学の教育理念及び教育目標に沿って設定した授業科目を履修し、卒業要件を満たす単位数を修得していること。
- イ 身につけた幅広い教養と修得した専門的知識や技術をもって社会に貢献しようとする強い意志と自ら行動できる力を有していること。

2 学部・学科のポリシー

栄養学部

栄養学部は、次に掲げる能力を有する学生に「学士（栄養学）」＜栄養学科＞、「学士（食創造学）」＜食創造学科＞の学位を授与する。

- ア 学則に定める所定の期間在学し、各学科の教育理念及び教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、卒業要件を満たす所定の単位数を修得していること。
- イ 食と栄養を通じて人類の福祉に貢献しようとする意志を有し、それを実現する幅広い教養と専門的知識と技能をともに修得していること。
- ウ 社会生活に必要な基礎的教養とコミュニケーション能力を有し、社会の変化に対応できる総合的判断力を有すること。

① 栄養学科

- ア 自主的精神に充ち、多様な人々と協調して、何事にも誠心誠意対処できる能力を有している。
- イ 幅広い科学的知識を身につけ、社会や自然界の仕組みを理解している。
- ウ 食・栄養・健康に関する高度な専門的知識と技能を身につけている。
- エ 能動的に課題を発見・探究できる実践力を有している。

オ 様々な職種と連携し、地域と協働するための、コミュニケーション能力や課題発見、課題解決能力を身につけている。

カ 管理栄養士・栄養士として、人々の健康増進・疾病予防・栄養改善に貢献できる総合的能力を有している。

② 食創造学科

ア 食の多様な領域に挑戦する好奇心と人と社会の幸福の向上に貢献しようとする姿勢を有している。

イ 食料生産から消費に至る一連のフードシステムに加え、食に関する経営的視点、心理的側面、身体へ与える影響など、食に関する幅広く、専門的な知識と技術を備えている。

ウ 食に関する幅広い知識を有機的に関連させ、嗜好性の高い食品を創造、提案することができる能力を有する。

エ 食に関する実践的な知識や技術を活用し、地域の振興、活性化に貢献できる能力を有する。

オ 社会に向き合い、様々なニーズや課題を発見し、課題解決を通じて新しいビジネスを生み出していく力を有している。

心理学部

現代応用心理学科

心理学を学ぶことによって、人々の幸福に貢献するために、心理学の専門知識や技術を応用できるようになることを目指し、次に掲げる4つの力を有する学生に「学士(心理学)」の学位を授与する。

ア 心理学の専門を通して、科学的視点に基づいて人の心や行動のもつ特性を知識として学び、理解する力があること。

イ 幅広い教養や心理学の基礎知識を通して、情報やデータを収集・加工して活用する力、情報から論理的に結論を導く力、自らの考えを適切な言葉で表現し発信する力、他者とコミュニケーションを図り協働する力をもつこと。

ウ 心理学の専門性と学術的知識の活用方法を実践的に学ぶことによって、市民あるいは社会人としての責任と倫理観をもち、社会に積極的に貢献しようとする意欲を有していること。

エ 「卒業研究」で学ぶことを通して、総合的な学習経験と創造的思考力を習得し、知識・技能等を活用して自ら立てた課題を解決する能力を身につけていること。

栄養学研究科

(1) 博士前期課程

栄養学研究科は、次に掲げる能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した大学院生に対して、主査および副査による論文審査、公開の論文発表会と審査委員による口頭試問を行って、可否を判定し、修士（栄養学）の学位を授与する。

(ア) 現代社会が抱える食と栄養の課題に対する学識を修め、課題解決のための実験・調査技法を身につけている。

(イ) 他者との議論の中で研究を発展させ、的確な結果を導いて提示・発表するとともに、修士論文としてまとめることができる。

(ウ) 身につけた専門的知識と技術を、社会的な問題の解決に還元することができる能力を備えている。

(2) 博士後期課程

栄養学研究科は、次に掲げる能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した大学院生に対して、主査および副査による論文審査、公開の論文発表会と審査委員による口頭試問を行って、可否を判定し、博士（栄養学）の学位を授与する。

(ア) 現代社会が抱える食と栄養に関する問題から、自ら研究課題を設定する洞察力、創造力を有している。

(イ) 課題解決のための研究計画を立案し、栄養学的、食品学的な専門的知識と技術を用いて実験・調査を遂行し、その成果をまとめ博士論文として公表することができる。

(ウ) 身につけた知識と技術を能動的に社会活動や教育活動として還元できるとともに、学术界の指導者としての能力を身につけている。

心理学研究科

(1) 博士前期課程

(ア) 臨床心理学又は心理学を中心とした高度な専門知識について深い理解を持っていると同時に心理学以外の領域についても学び、物事を幅広い視野から深く考えるために役立てることができていること。(知識)

(イ) 臨床心理学又は心理学の知識を通して人間と社会への深い理解、さらに、社会人として求められる倫理観や責任を持ち、他者とともに専門職業人として協働できる能力を有していること。(態度)

(ウ) 臨床心理学又は心理学の知識を通して他者とのコミュニケーションスキル、データや資料を読み取る能力、情報処理能力などの技能を獲得していること。(汎用性技能)

(エ) 総合的な学習経験と創造的な思考力の集大成として修士論文を提出していること。

(2) 博士後期課程

(ア) 心理学に関する最新の知見と考え方、対象としている社会的な問題とその周辺的な課題について専門的な知識に基づき、科学的な探究が行えること。(知識)

(イ) 心理学についての未開拓、未解決な課題を解決するための研究を行い、関連する学問分野や社会に新しい知見を提供できるようになること。(態度)

(ウ) 心理学について、独自の研究計画・方法・知見を見出し、心理学分野に新しい知見を提供できること。(技能)